

なすべし。子あがり、おとりは、翌年とやをして見事に成、女とりは直に暎をする也。

〔飼鳥必用〕錦鷄

いつの比渡しとゆふ事不知、紅毛持渡にて、何レ外國鳥と相見へ目色不常、生立方白鶲と同じ雛の内雌雄も分り兼候得共、足の色も少シ替り、總羽赤實出候は雄也、雌は目の色違ひ、産巢ならば雄壹羽に雌三羽付置、羽をばこき圍の内放飼にて、夜々庭籠へ留候得者、玉子落しよふ宜敷、からず高キ所へ登りたがり、玉子産み候山にては、木の上へ巣組、玉子産かへり候へば、土地にて生立候ものにはあらず哉、氣を付候得者、其様子相見へ申候、地鳥水鳥にも木のうへ、巣組の鳥多有之物也、功者へ尋度思ひしかど、外國鳥にて玄る人なし、庭籠の内へ飼詰には、雌雄引放し差置、盛りの時節掛ケ合、一度掛り候得者不殘かへる事無相違、雄盛りの時隨分氣付、雌の不痛よふに計べし、四季とも盛り有る鳥にて心得可有事、熱氣強鳥鼻のつまる事有り、早速療治するべし。中

天鷄

唐紅毛の渡鳥にもあらず、錦鷄と高麗雉子懸合せ、玉子落し生立、天鷄と名附、錦鷄と地雉子と懸合せも有之、右善惡毛色いろくあり覺べし、鷄と雉子と懸合、雁鷄ガシカイと名附、毛色善惡有り、此類盛薄く、玉子かへり兼候もの也、飼方雉子之通り、

〔多識編原禽〕吐綬雞、異名避株禽

〔和爾雅六禽〕吐綬鷄、鷄鳥並同、

〔重修本草綱目啓蒙原禽〕鷲雉略

中

吐綬雞

和產ナシ、稀ニ舶來スルコトアリ、長崎ニテ吐錦雞ト云フ、一名吐綬鳥、禽註經功曹、古今綬

鳥、埠雅錦心繡口鳥、王會新編錦帶功曹、廣東新語孝鵠、綬雞、吐綬、上同形鷄ノ如ク、首ハ雉ニ似テ白色頰赤ク